



# 主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町1-10  
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131  
<http://www.shizuokabank.co.jp/>

2018年5月9日の決算発表以降いただいた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	<b>アパートローンや資産形成ローンへの取組み状況は</b>
A1	<p>「借り手の返済能力」に加え、空室リスクや賃貸価格の低下リスク等を勘案した「賃貸物件自体の収益性」を含めた事業リスクにより適切に審査している</p> <p>アパートローンは従来から慎重姿勢で取り組んできており、突出した残高の伸びとはなっていない。これまで実施してきた入居率調査では9割を超え、また、延滞率は低位安定推移しており、資産の健全性は保たれている</p> <p>資産形成ローンは、収益物件の取得などを通じてこれから資産形成を行っていくお客さまをサポートする商品。融資後も継続的なサポートを通じてお客さまの資産形成を支援することが前提で、年収が高く、金融資産を相応に保有する方を主なターゲットとしており、顧客属性は良好。また、1物件当たりの実行金額が小さく、小口分散の効いたポートフォリオとなっている。2018年3月末時点で3ヶ月以上の延滞はゼロであり、アパートローン同様、健全性は保たれている</p>

Q2	<b>有価証券ポートフォリオ再構築の状況は</b>
A2	<p>有価証券ポートフォリオの再構築は、米国金利が上昇局面にあり、慎重に取り組んできた。市場動向に合わせ、機動的にオペレーションを行い、含み損を大きく増加させることなく、残高の積み上げを行ってきたが、今後も引き続き市場との対話を通じて慎重に対応していく方針</p>

Q3	<b>システム関連を含めた経費の見通しは</b>
A3	<p>システム関連経費は、次世代システムの稼働予定の2020年度をピークに減少し、その5年後には100億円を切る水準にコントロールしていく。経費全体では、2017年度は中期経営計画で想定していた850億円を下回り、822億円で着地し、2018年度計画についても816億円と中期経営計画比△29億円に抑える見込み</p> <p>次世代システムにおける記帳・決済システムの稼働時期を2019年1月から2020年度中へ延長したことに伴う追加経費は20億円程度を見込むが、減価償却負担の増加（5年償却、+4億円/年）は、継続的に取り組んでいる経費削減で十分に吸収可能な水準であると考えている</p>

以上

# SHIZU-GIN